今治市民活動センターだより

●今月の特集●　今治市を魅力あるまちへ
「今治市市民が共におこすまちづくり事業」レポート

夢サラダ Vol.69

2025.4.1　発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者：(特非)今治ＮＰＯサポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX　0898－25－8234
E-mail　imanpo@nifty.com

今治空襲を忘れない

▲空襲で今治市街地の80％が「灰と瓦れき」になった。

太平洋戦争末期の昭和20(1945)年、今治市は米軍から3回の空襲を受けます。1回目の4月26日、2回目の5月8日はB29爆撃機による「爆弾空襲」。3月10日の東京大空襲から、米軍は都市を焦土化する「焼夷弾による無差別爆撃」を繰り返しますが、これとは背景が異なるもの。4月1日の米軍沖縄本島上陸で始まった沖縄戦との関係が明らかになっています。3回目の空襲は、8月6日の午前0時から始まりました。B29のすさまじい焼夷弾による爆撃でした。

戦後80年を迎える今、空襲を体験した人びとの高齢化は進み、証言する人は激減しています。「今の平和は当たり前ではない。」今治空襲を経験した一人で、「今治市の戦災を記録する会」会長の新居田大作さんは言います。戦災の悲惨な経験を後世へ語り継ぎ、平和の尊さや命の重さについて、戦争を知らない世代へ語る活動の今を追います。

経験した「記憶」を社会の「記録」へ

「今治市の戦災を記録する会」を結成したのは平成17（2005）年です。終戦・今治戦災60年の節目に開催された「今治市歴史顕彰シンポジウム」がきっかけでした。「今治市の戦災の記録が少なすぎる」との気づきから、戦災体験者の聞き取り、米軍資料調査を進めてきました。8月のB29による「焼夷弾無差別爆撃」に対し、4月と5月のB29による「爆弾空襲」は背景が異なる…。明らかになる実態を前に、戦災を正しく把握し、伝える使命感は高まるばかりです。

実体験を伝える活動として大切にしているのが、地元の小学校で行う特別授業です。自身が疎開した経験を交え、「疎開で家族はバラバラになってしまうこと。」「戦争が終わっても、元の生活に戻るには時間がかかること。」そして「失われた命は二度と戻ってこないこと。」空襲の恐ろしさだけでなく、当たり前の日常が奪われる戦争の悲惨さを、子ども達の目線で分かりやすく語りかけています。

▲「僕の家はこの辺り…」と、焼け野原の写真を見つめる子ども達。

▲「元の暮らしに戻るには…」との質問に、「長くかかる。家も学校もない…。でも希望があれば頑張れるね」と声がけ。

真実を捉えた「記録」。その伝承に向けて

市街地に「今治市戦災の碑」が建設されたのは平成20（2008）年です。民間人、つまり一般戦災死没者を追悼するためです。軍人などの戦闘参加者とは異なり、身元が分からない人が多い中、犠牲者の名簿を作成する活動もはじめました。※1

毎年、8月6日の今治空襲の日には、「戦災の碑」に献花する式典を重ねています。今治混声合唱団「響」による合唱で式典は開幕。空襲経験者による体験談に耳を傾ける機会もつくってきました。戦争を知らない世代が体験者の痛み、苦しみを洞察する大切な時間です。令和5（2023）年からは会場に「今治空襲・戦災関係写真パネル」を展示。体験者の肉声を届けることが次第に難しくなる昨今、空襲の実態を正しく把握し、分かりやすく伝えていくことが使命です。

▲第17回式典では「今治市立吹揚小6年 清重和さん」が作文を朗読。

▲今治市内の高校生がボランティア参加。若い世代も運営を支えながら、平和を願う。

※1 戦災死没者氏名再調査の結果、今治空襲による死没者は575名と判明。平成21（2009）年「今治空襲罹災者過去霊簿」を作成した。

「今治市の戦災を記録する会」は「空襲・戦災を記録する会」をはじめ多くの協力を得ながら、20年間に渡り、調査をしてきました。この程、明らかになった詳細な事実を記録したＤＶＤが完成。映像の技術で今治空襲をより実感を持って捉えることができるものです。多くの人に戦災を伝え、平和をつなぐための作品です。

＊「中面に関連記事」＊

2024 年度
市民が共におこすまちづくり事業
報告会

先般、2024年度補助事業の報告会がありました。合併20周年を迎える今治市の地域を見直し、未来へ繋ごうとする市民の数々のチャレンジ！時空を超えて受け継ぐべきもの、多様な世代が学び合うものへの使命感が感じられるものでした。継続に向けて、より多くの市民参加が求められます。

▲応募時の選考から報告まで熱心に耳を傾ける審査委員。

一般社団法人しまなみドローン協会
三世代で考える地域防災とドローン

「ドローン」操縦士の育成が課題。参加者に「ドローン」を身近に感じてもらうきっかけになった。

代表：曽我部敏行さん

防災・減災に利用できる「ドローン」への理解・普及を目指す２年目の補助事業。開催直前に「南海トラフ地震臨時情報」の初発令があったこともあり、改めて日頃の備えの大切さを確認する機会となった。「災害発生時のスマートフォン、防災ラジオの活用」「防災グッズを準備するポイント」等、参考になる具体事例がいっぱい。手作りの「防災かみしばい」では、今治のまちで命を守る行動をいかにとるべきか、考える時間となった。

参加者のお楽しみは、ドローンの操縦体験。ドローンを使ったクレーンゲームをしながら、上昇、下降、旋回等に挑戦。災害地では被災状況の早期確認に活躍実績があるドローン。課題は「ドローン」操縦士の育成や活躍のしくみだ。要救助者の探索、物資運搬等での活用等をイメージしながら、そのポテンシャルを身近に感じてもらう機会となった。

▲段ボールを使った椅子づくり。今治市防災士会の伊藤防災士から「日用品を使った簡単防災グッズ」を学ぶ機会に。

▲今治工業高校の協力により完成した「防災かみしばい」。的確な行動をよびかけるのは「高虎君」。

▲ドローンの活用法を学び、ゲーム感覚でのドローン操縦体験。手指の感覚が優れた子ども達は習得が早い！

一般社団法人 Brave Heart 楽団
心音（ココロオト）の恩送り
～今治発 Brave Heart 楽団チャリティコンサート～

私が“理解したい”からはじめた活動。今、垣根を超えた活動への共感が高まっていることを実感。

代表：竹之下乃子さん

「みんなちがってみんないい」を合言葉に活動する楽団による定期演奏会。２年目の補助事業で、今治市では３回目となる音楽会は、トークセッションとコンサートの２部構成。

第一部トークセッションには、今治市で活躍する複数のスピーカーに、大阪在住の団員ママが登壇。様々な経験、知見から溢れる多彩な視点が話し合われ、個々を認め合う社会へ向けてのメッセージが共有された。第二部のコンサートでは、コーラス、楽器演奏、そしてオペレッタも披露。子ども達が自分らしく舞台に立てるよう、プログラムを構成。素敵な演出に即興の演奏も加わり、来場者をワンネスな世界へ導いた。

▲ｽﾍﾟｼｬﾙｹﾞｽﾄ”しもやん”（左）舞台準備中のライブもバッチリ。

▲「多様性社会と言われる現代」をテーマにトークセッション。生きる力を育む地域づくりを展望。

▲地域の現状と未来を語る。大阪在住の団員ママから、今治へのエールも。

▲第二部は“現代版ﾌﾞﾚｰﾒﾝ音楽隊”の合唱から！本物の楽器＆ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸ楽器で演奏。ｽﾍﾟｼｬﾙｹﾞｽﾄ AKIRA と共演したｴﾝﾃﾞｨﾝｸﾞでは会場も一体に。

▲パフォーマンスも多彩。手作り感満載の衣装、小道具から保護者、支援者の温かさが伝わる。

今治市の戦災を記録する会
「今治空襲と戦災」DVD の制作

惨禍とその背景が映像だからこそ、つながって伝えられた。多くの市民に届けたい。

代表：新居田大作さん

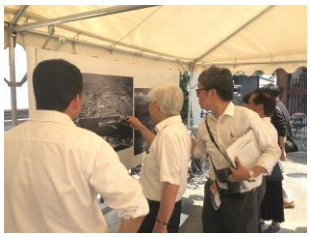
戦災を正しく記録するという活動は、全国各地の民間の取組みによって続けられてきた。今治の調査活動も重ねること 20 年。今治空襲の体験談の聞き取りはもちろん、多くの協力者の尽力で重要な資料を発掘。新たな事実が浮かび上がっている。

“なぜ、今治が３度も空襲を受けたのか”
“なぜ、学校や郵便局が爆撃されたのか“

そこにある背景、真実については、爆撃した米軍の資料から紐解くことが重要だ。

終戦から 80 年の節目を迎え、正確な調査の「記録」と体験者の肉声を交えた「記憶」を残すという使命感を持って、DVD を制作した。“なぜ…”という問いの先には、米軍の目的があり、そこに向き合うことは戦争の厳しさに向き合う作業だった。今なお、世界で戦火がやまない中、次世代を担う若者に平和の尊さを伝える作品となった。

▲令和6(2024)年夏、空襲から1カ月後の今治市街地の航空写真を公開。約240mからの低空から撮影されている。「復興の原点」となる写真だ。



▲追悼式典では15点のうち、2点を展示。焦土と化した光景がはっきり分かる。

◀4冊の記録集「今治市の戦災 あなたに伝えたい」を発行してきた。この1年半は、DVD制作に魂を込めた。この記録集に加えたい実相が鮮明になった今、第5弾の発刊を目指したい。

一般社団法人コード・フォー・イマバリ
今治の歴史文化を次世代に伝える
～オールドイマバリ・クエスト～

コード＝デジタル技術を活用して、故郷・今治を元気にしたい！二地域居住のライフスタイルで活動中！！

代表：森隆大朗さん

今治の「昔」と「今」を写真でつなぐ「今治今昔写真プロジェクト」を重ね、「オールドイマバリまちあるきマップ」としてデジタル化してきた。この活動をベースに本事業ではゲーム感覚で今治の歴史と文化を学ぶまち歩きを企画した。第一回は今治商店街の裏手を流れる金星川を舞台に「金星川クエスト」を企画。第二回は市民からエリア・スポットを公募して、今治城から町へ続く大手通での「大手通クエスト」を開催した。後世に継承すべき大切なもの。中でも歴史や文化について、未来を担う若者に関心を持ってもらうきっかけへの手応えを得た。次年度以降、主体的な町歩きにつなぎたい。

▲オリエンテーションイベントではスマホでデジタルカード（NFT）を集め、地域の魅力を再発見するゲームについて紹介。

▲「金星川クエスト」で7つの橋を巡り、隠されたNFTを集める参加者。区画された町筋に歩いて迷い込みながら、発見を重ねるのが楽しい。

▲「大手通クエスト」は今治城の外門辰ノ口からスタート。脈々と紡いできた歴史を学びながら歩くと、素敵な観光散策のひと時に！参加者との“妄想”がエッセンス！！

市民が共におこす まちづくり事業

応募締切 5/7

2025 年度事業を募集中！

メニュー

今治市を個性的で魅力のあるまちにするための公益性のある事業

① 市民活動推進事業（継続性のある事業）
　補助額：上限 50 万円（補助対象経費の 70％以内）
② 協働推進事業（市の提示テーマに沿った協働して取組む事業）
　補助額：上限 100 万円（補助対象経費の 70％以内）

対象

まちづくり事業に中長期的に取り組む団体

・今治市内に事務所を有し、主たる活動場所が今治市内である団体
・10 名以上（過半数が今治市内に在住）の構成員からなる団体　等

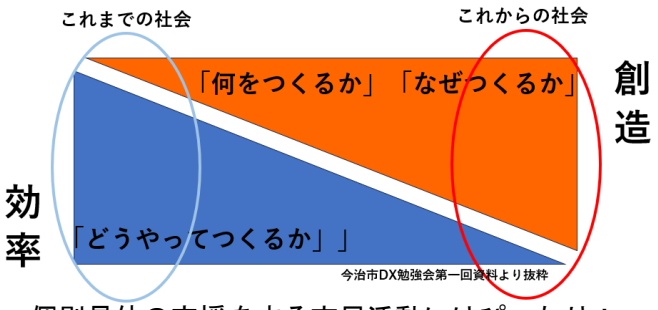
デジタルで街を楽しくする
ＤＸの本質と活用の秘訣

インターネットが当たり前のデジタル時代！「IT やデジタル・システムについてよくわからない」という声が聞こえてくる市民活動の現場でも、コロナ禍において注目度が増しています。ボランティア・NPO の課題解決にデジタル技術を活用するため求められることとは！？その本質とは！「デジタル未来コンソーシアム DX 勉強会」への参加レポートから、今治市が推進するデジタル未来戦略に学びます。

DX (Digital Transformation)とは

ＤＸの本質は「事業の定義」を書き換えること！

日本のデジタル活用は効率化にありました。しかし、人口が減少する局面となり、“効率的”にという市場原理は古いものに…。新しいモノ・コトを創り出す「創造性」が求められています。デジタルで「事業の定義」をつくりかえ、新しい価値を生み出すことこそ、真のＤＸです。



＊個別具体の支援をする市民活動にはぴったり！

ミライバマリ
今治市デジタル未来戦略

今治市のデジタル未来戦略は“ミライマバリ”がｷｬｯﾁﾌﾚｰｽﾞ。DX は目的ではなく手段！考えるべきは今治の未来です。

▲ mirai ＋ imabari
ﾐﾗｲ　ｲﾏﾊﾞﾘ の造語。

今治市のデジタル化の推進のための官民の連携基盤として「デジタル未来コンソーシアム」設置しました。デジタル技術等に関する勉強会や情報交換会などを通じて、デジタル力の底上げに取組んでいます。

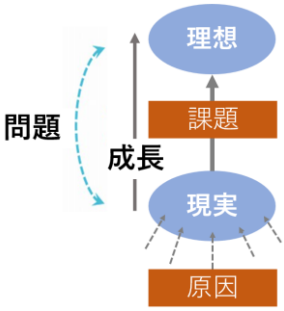
デジタル未来コンソーシアム DX 勉強会

組織の問題解決を応援する全６回

デジタル技術の活用により、目指すべきゴールは？

勉強会の参加者一人一人がシステム導入で何を達成したいのかを明確化することから始まった勉強会。全６回のプログラムを通して、組織の課題の原因を探り、解決策を検討する手がかりを得ていました。

問題解決メソッド



≪5 つのステップ≫
1.問題を一言で言い表す
2.問題を「理想」「現実」「事実」「解釈」のマトリックスで表す
3.問題の「原因」を見つける
4.問題の「課題」を列挙する
5.課題に優先度をつける

今治市 DX 勉強会第２回資料より抜粋

サイボウズ㈱で用いている組織の問題を解決する議論のフレームワーク。「理想」と「現実」の隔たりを“問題”と捉え、“問題”の課題を導く。この時、「解釈」を裏付ける「事実」を導くのが意外に難しいことを体感。

「理想」があるから問題が生まれる。理想を語り合えるチームづくりの大切さに気づかされる。

◀「愛媛ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｰﾀｿﾘｭｰｼｮﾝ協会」が講師陣の中心。協会会員のサイボウズ㈱のﾂｰﾙで実践。共通の言語を使って話し合いを円滑に進め、前向きな討議を生むシンプルな考え方でワークを進める。

デジタルで今治市の街を楽しく

デジタルをきっかけとしたソーシャルキャピタル結成へ

新しい価値を生み出しながら、成長し続けていく組織に求められるのは、チームワークです。さらに、組織内での相互関係を、組織を超えたネットワークにつなげていく…。今治市の多様な組織が目的を共有し、豊かな未来を構築していくことこそ、「デジタル未来コンソーシアム」の目指すことです。勉強会では、デジタル推進に関する取組みを行なおうとする参加者同士の交流をきっかけに、関係性を構築する様子が見られました。勉強会を通して水平的なネットワークを支援し、人と人との結び付きを支える仕組み「ソーシャルキャピタル（社会関係資本）」構築へ高めます。乞うご期待！！

チーム応援ライセンス

ﾁｰﾑﾜｰｸを支援するｻｲﾎﾞｳｽﾞ㈱ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾂ

サイボウズ製品を利用したい！
でも商品購入は財政的に困難。
そんな NPO が 9,900 円(税別)/年で利用できるライセンス！！
まずは試用から始めませんか！！
https://npo.cybozu.co.jp/team/